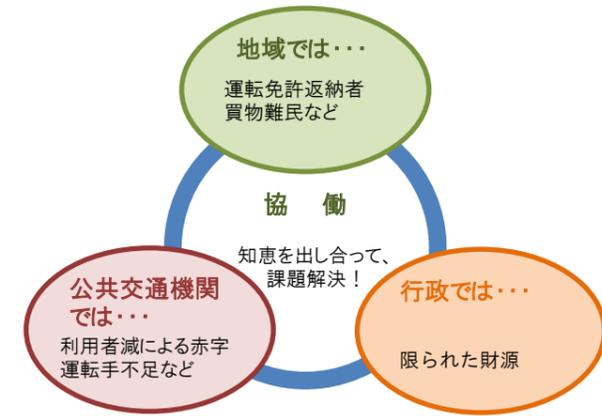
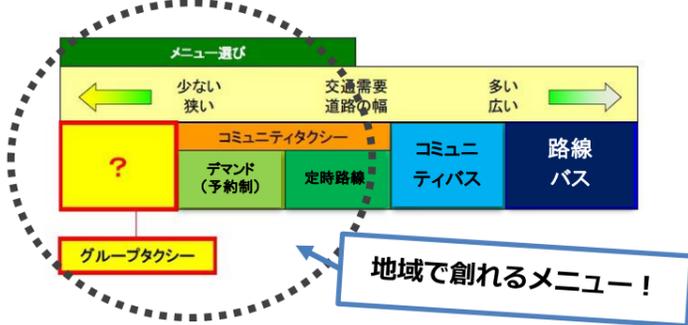


【公共交通を取り巻く課題。ともに取り組みましょう！】



【地域の話し合いで生まれたグループタクシー】



山口市の主な支援制度

- 相乗りするほどお得なグループタクシー利用券・・・65歳以上で最寄りの公共交通機関から1km(75歳以上700m)以上離れている方に距離に応じて300円、500円、700円の利用券を年間60枚交付
- 福祉タクシー利用券・・・障害者手帳をお持ちの方に300円の利用券を年間40枚または80枚交付
- おでかけサポートタクシー券・・・要支援・要介護認定を受けている方、介護予防・日常生活支援サービス事業対象者に300円の利用券を年間40枚交付 (グループタクシー・福祉タクシー・おでかけサポートタクシー利用券の重複申請は不可)
- 福祉優待バス乗車証・・・70歳以上、市内の路線バスに限り一乗車100円
- サイクル・アンド・ライド、パーク・アンド・ライド(乗り換え専用の駐輪場・駐車場)
- ノーマイカーデー参加登録者への毎月第3金曜日のバス半額割引、協賛店舗での特典サービス
- バス停上屋設置の補助金 補助対象経費の2/3以内、補助限度額70万円

詳細は、山口市交通政策課までお問い合わせください！

創ろう！守ろう！みんなの公共交通 地域検討会かわら版

大殿・白石・湯田・宮野編
平成29年5月発行



参加者アンケートより<14名回答>

Q地域検討会への参加により公共交通への理解が深まりましたか？

- ①深まった 10人
- ②どちらともいえない 3人
- ③深まらなかった 1人

Q公共交通を利用しようと思えますか？

- ①引き続き利用する 7人
- ②これからは利用する 4人
- ③わからない 1人
- ④利用しない 1人

Q公共交通を守る必要を感じましたか？

- ①感じた 14人
- ②どちらともいえない 0人
- ③感じない 0人

Q地域での話し合いの必要性を感じましたか？

- ①感じた 14人
- ②どちらともいえない 0人
- ③感じない 0人

【感想(抜粋)】

- 検討だけで終わらないで、PDCAサイクルを実践して欲しい。※必ず本会の案件(課題)をフィードバックしていただきたい
- 知らないから利用しない、利用しないからわからないの悪循環になってしまわないよう、情報収集して、まずは利用してみようと感じました
- 今日出た意見をこれから10年間の計画の中に具体的に入れてほしい
- 高齢の父がいつまで運転できるのか、家族として不安を感じているのも事実です
- 今は必要としないが、10年後には必要となるので、年に何回は公共交通の利用が大切と思った
- 公共交通利用促進は大切だが、公共交通が便利で役に立つという裏付が必要と思う
- 利用促進PR、必要性を普及PR
- みんなで(地域で)考える機会があるのではないのでしょうか

今後に向けて地域の話し合いを応援します！
詳細は、交通政策課にご相談ください。協働推進課とも連携し、専門家のサポートも受けられるように調整します。

山口市では、市民が将来に不安を感じることなく、安心して生活できるよう、マイカーに頼り過ぎず、移動手段の軸足を公共交通へ転換していくために、まちづくりや地域づくりなど総合的な観点から山口市では「山口市市民交通計画」を平成19年に策定し取り組んできました。

その中で、交通弱者のためになんとかしたいという思いから、コミュニティタクシーの運営組織(小鯖・宮野・嘉川・小郡・秋穂・佐山・阿知須・島地)が立ち上がり、地域が主体となり、地域のニーズにあったコミュニティ交通が整えられました。また、更なる交通弱者への対策としてグループタクシー(相乗り)の仕組みも新設しました。あわせて、都市核、地域核間を結ぶバスや鉄道についても維持強化を図ってきたところです。

しかしながら、鉄道や路線バス等の利用者の減少や、運転手の不足により、路線の廃止や減便につながっている状況です。一方で、これからの高齢社会の中での運転免許返納者が増えるなか、ますます困る人が増えると推測されます。また、移動手段を持たない若者や通勤者にとっても、公共交通は移動手段として必要不可欠なものです。

この現状を打破し、「クルマがないと生活できない山口」から「クルマがなくても生活できる山口」に転換し、安心して住み続けられる、クルマに頼り過ぎない交通まちづくりを目指して、「第二次山口市市民交通計画」を平成29年度中に策定することとしています。

そこで、地域の皆さんに現状を理解していただくとともに、地域の事情やニーズをお伺いし、より良い交通のあり方について、一緒に考えていくため、市内を10ブロックに分けて、去る3月に地域検討会を開催しました。

3月13日（月）大殿地域交流センターにおいて、15名の参加のもと、地域検討会を開催しました。

最初に山口市市民交通計画についてご説明し、現状の課題をわかちあい、専門家の意見を頂き、課題を解決するアイデアを出し合いました。その概要をお伝えします。

この検討会を契機として、各地域の機運が高まり、それぞれの地域にあった地域公共交通を検討するための、二回目、三回目の勉強会につなげていきましょう。



なぜ今公共交通なのか・・・

現在車を運転している人のうち、4人に3人は将来運転し続けることに不安を感じているという統計結果がある。マイカー依存社会は無理の上に成り立っている。

5年後・10年後に向けた公共交通への期待は大きい。しかし「今」はクルマの運転に困っていないところに課題

今、5年先のことを考えて行動しなければ。

- 山口市民の7割が1年1回(1,000円)公共交通を利用するだけで守れる！
- クルマは乗らなくても 1日1,700円！（購入費、税金、保険、車検、駐車場代）

毎日の行動を車から公共交通機関に転換するのではなく、何かのときに年1回でも利用できるようになれば・・・

- 家庭版ノーマイカーデー、ポイント付与 →ぜひ前向きな検討を
- 公共交通のヘソが無いことは課題。まずはイメージづくりと情報提供

公共交通を考えることは、まちづくりを考えること。われわれ専門家も全力で応援します！



交通ジャーナリスト 鈴木文彦氏



ノーマイカーでポイント

- 家庭ノーマイカーデーの制度をつくり、ポイント付与により、買い物等ができるようにする
- 公共交通機関を利用したらポイントが貯まるようにし、貯まったポイントで特産品と交換できるようにする

公共交通のヘソが必要だ

- 鉄道⇄バス⇄タクシーの乗り継ぎを良くする。
- バスセンターを山口駅や米屋町等で検討してみるは
- 県立大学跡地利用 北部の交通拠点としてバスターミナル設置を
- バスターミナル化 宮野-山口駅-湯田-小郡

■現状をわかちあう！■

- 高齢化
 - 高齢者ドライバーの増加
 - 買物難民の増加。公共交通で出かけても、帰りの荷物を運ぶのが大変
- バスの不便さ
 - バス停が遠い
 - 国道9号バイパスのバスの便数が少ない
 - 停留所の時刻表は、夜暗くて読めない
 - ルートや時刻表が分かりにくい
 - バス停にベンチが無い
 - バス停が歩道にあるので、自転車が通ると危ない
- コミュニティタクシー
 - 路線追加してほしい（住宅街へ）
- グループタクシー
 - 距離要件を緩和してほしい

できたらいいな・・・

- コミュニティバスルートの再検討 (例) 白石地区山口高校北側ルートの新設
- バス路線を増やせば、必要性、利用も広がっていくのでは
- 小・中学校のバス通学を認める
- 朝・夕のパークアンドライドで、渋滞解消を
- 路面電車やトローリーバスの運行
- コミバスを何歳でも100円に
- バス停に、上屋やベンチの設置

ヘソも必要だし、乗り換えの環境を良くしていくのも大事

市内を走る公共交通は、Yahooで路線検索できる。まずはいっぺん検索してみて



大阪大学教授 森栗茂一氏

～誰もが安心して暮らせるための交通まちづくり～

- 公共交通は社会のインフラ
 - 公共交通を考えることは、まちづくりを考えること
 - 誰もが自分の意思で移動できるように (高齢者・子育て世代・高校生)
- 集い歩くことが賑わいに
 - 生活に必要な施設をつなぐ公共交通ネットワーク
 - 多少の不便も「健康増進」と割り切る
- こどもの教育
 - こどもの社会との関わりが増す



基幹交通(バス・鉄道)の利用促進の啓発！
地域ニーズの把握！
地域での話し合い！

みんなで創る
持続できる
地域の交通！

